

⑥2025 年度 製鉄記念八幡看護専門学校
自己点検・自己評価 まとめ

I. 教育理念・教育目的（評価平均 2.7）

教育理念、教育目的については、教員の入れ替わりがある中でも共有でき、浸透できている。

II. 教育目標（評価平均 2.7）

教育目標についても全体の評価平均は 2.7 と高く、教員の理解、共有ができ適切である。

卒業時の到達レベルとして期待する卒業生の特性を学生便覧に明示している。

卒業時看護実践力の到達状況 2025 年度卒業生 66 回生 実習まとめ参照

国家試験合格状況 2025 年度卒業生 66 回生 100% 学校パフレット掲載

III. 教育課程経営（評価平均 2.5）

「新カリキュラムの基本的な考え方」「各分野の考え方および科目の設定理由」を作成し、教員間での共有と新人教員にはオリエンテーションで提示し説明を行っている。教育課程経営の項では全体が 2.5 であるが、〈教員の教育／研究活動の充実〉は評価が 1.4 であり、〈学生の看護実践体験の補償〉でも一部低評価がある。教員の教育・研究活動の充実については各教員の授業時間（平均 71.4 時間/年）、実習時間数（平均 28 週/年）は年間計画の中で表示している。教員の異動や退職により授業配分や担当領域が変更する場合もあるが、大きな講義担当科目の変更がないようにしている。授業準備の時間の確保は各教員によって生活背景も異なり一定の基準は設けていない。教員個々のスケジュールの中で準備を行うが、業務の過密さによって時間外労働時間での対応としている。近年、働き方改革によりタスクシフトも推進され、事務業務の教務事務への移行や業務整理を行うよう取り組んでいるが、なかなか進まず。2025 年度は教育 DX への取り組みも強化する予定であったが、研修受講に止まった。新学籍システムの導入によりタスクシフトを進めていきたい。

教員の自己研鑽としては、今年度日本看護学校協議会学会 福岡学会であり、ほぼ全員の教員が現地、オンラインで受講した。また、KOMI ケア理論の e-ラーニングを 4 名の教員が受講した。年間を通してのオンライン研修で、KOMI ケア理論についての理解が深まると共に、自己の講義や実習での活用までしっかり考えられていたため受講は有効であった。教務図書購入についても自己の担当領域の者以外の教員の教育力の向上につながるものや今求められている教員の役割など社会の動きについていくことができるような図書の購入を勧めている。教育者として教員のレベルアップを図るためにも教員の大学編入、大学院進学を推奨、中堅教員以上は組織における管理的視点を養うために看護管理者教育課程ファーストレベルの受講を推奨しているが、家庭的な背景もあり受講が進みにくい。

（2025 年度大学編入 1 名卒業）

主な実習施設である製鉄記念八幡病院看護部が毎月、臨地実習指導者会議を開催している。その中で臨地実習指導者と教員が情報共有を行い、協力体制を強化している。臨地実習指導者講習会を今年度も第 1 回第 2 回とシリーズ化し行った。臨地実習指導者と『看護を教える』臨地実習指導について考える機会にできた。

IV. 教授・学習・評価過程（評価平均 2.5）

全授業科目に対して授業評価を行い、集計した評価結果は学内に 1 週間掲示している。学外講師に対しては、必要時口頭での報告を行い、学内教員は自己の評価結果をもとに授業改善を行っている。講義・実習以外での学生自身の評価や教育活動も多面的に評価し、整理する体制も必要であり、社会人基礎力の育成を目的とした自己評価を行っているため、連動させることができると良い。業務に追われ授業内容の修正が十分行えていないことも多いことや学生の学びの質を向上するための授業方法の工夫は十分とはいえない。シミュレーション教育、PBL、反転授業等科目に応じた授業方法を工夫していかなければならない。

V. 経営・管理過程（評価平均 2.2）

経営・管理過程に関する評価は例年、全体的に他の項よりも評価が低く、学校組織および運営に関する教員の理解が図れていない結果となっている。情報提供には努めているが、どの範囲まで理解を求めるか、教員個々のラダーも関連してくるため難しい。

学校施設については老朽化が進む中、今年度も必要か所の部分的な修復で対応してきた。法人のリブレース計画に参画し、見通しをもって設備管理をしていく。

学生への支援として、アドバイザー制により学生個々の状況に応じた教育支援体制を強化している。個別に対応が必要なケースは増えているものの、教員間での共有や法人の臨床心理士からの支援を受け、対応できている。1 年次からの単位未習得者が増え、学習指導にも時間を要している。3 年次は特に学習面に力を入れ、アドバイザーの学習支援の他、進路・国試担当の教員は年間計画で学生の学習支援を強化している。毎年高い合格率を維持できていることからこの取り組みは評価できる。さらに 2025 年度は進路・学習ガイダンススケジュールと称して、3 年間見通しを立てて学校生活が送れるように本校で行うガイダンスを一覧にした。学生が活用するのみならず、教員間での共有、周知に活用していく。

経済的な支援では、学生支援機構の奨学金に加え、2022 年度より高等教育の就学支援新制度の認可を受け、運用を始めた。法人の奨学金制度も 2024 年度からは貸与額が 40 万円に増額され、半数の学生が利用している。2025 年度からは多子世帯に対する給付制度が始まり、学生への経済的支援は手厚いと言える。2026 年度より校納金の増額が決定しているが、家庭負担を十分考慮した増額とした。

自己点検・自己評価体制については 2023 年度より全教員へ看護学校における自己点検・自己評価の意義と目的について説明を行い、全員で評価を行っている。評価結果をもとに評価平均値が 2.0 未満の項目に関しては今後フィードバックを行っていく。2026 年度より学校教育法の一部改正により、自己点検自己評価も大学に準ずる形で、さらに第三者評価の実施も努力義務とされた。5 年後の本格的な実施に向けて、準備を始めていく。

VI. 入学（評価平均 2.4）

18 歳人口の減少の中、看護系大学の増設が進んでおり、男子募集、公募推薦制度を導入して 2 年目であるが、苦戦した。募集活動として、広報担当教員を中心にホームページリニューアル、入学案内の作成、オープンキャンパスの開催（年 3 回実施）、高校訪問に取り組んだ。高校訪問については学校長、教務主任で北九州市内全域、京築、筑豊、山口県（下関市）、大分県全 61 校訪問を実施した。その成果として大きく定員割れすることなく 2026 年度新入生は 37 名、うち男子 4 名確保できた。来院患者さまやご家族を通じた広報活動として院内デジタルサイネージも活用を開始し、さらに法人の協力を得てインスタグラムでタイムリーに学校の様子を発信している。

VII. 卒業・就職・進学（評価平均 2.0）

助産師進学者は、2025 年度 1 名 大学編入者はなし

2025 年度 66 回生 就職状況 卒業生 39 名

製鉄記念八幡病院 27 名

他 外部就職 11 名

助産師進学 1 名

卒業生 27 名が製鉄記念八幡病院に就職した。母体の病院への就職者を増加させる試みとして、看護部主催のインターンシップ形式の病院説明会を開催してもらった。学生の反応は非常に良く、成果が期待できる。学校としては、相談窓口としていつでも卒業生が来校できるようにしており、昨年度も 7 月にホームカミングデイを開催し、卒業後の状況の把握を行った。卒業時、学校長面接を行い卒業生による評価を実施しているが、データ分析までは行えていない。卒業後の活動状況に

関しても系統立てての把握はできていない。しかしながら同窓会若竹会の会員追跡により全国各地で同窓生が活躍している様子は把握できている。進学、資格取得、大学編入、大学院入学支援は実施している。近郊の助産師学校が1校募集停止したため、助産師進学が難化しているが、毎年1名は助産師進学できている。

VIII. 地域社会／国際交流（評価平均 2.1）

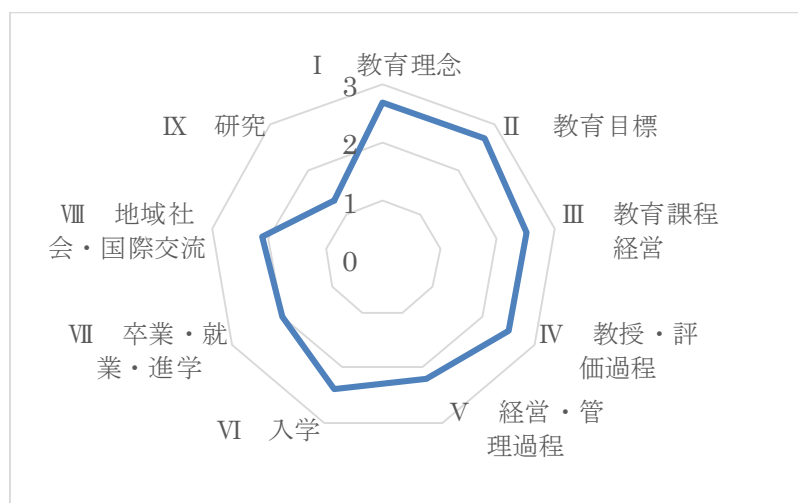
2025 年度も法人が行う地域貢献活動への参加を「地域貢献の日」として年間のカリキュラムに組み込み、学生の行う地域活動として定着できた。しかしながら、その先の学生主体の活動にまで発展させていくことは今年度もできていない。国際交流については教育研修で JICA の研修（2 年に 1 回）を行うのみであり、同じく発展させた取り組みに着手できていない。教科外活動において異文化における看護、看護における国際協力等の内容を含んだ学びも検討したい。

IX. 研究（評価平均 1.3）

2025 年度も実践報告は教員 1 名が 1 例まとめるよう目標を設定したが、やはり実践には至らなかった。日本看護学校協議会福岡学会にて本校学生が学生企画「地域・在宅看護論実習からの学び～学生による看護の未来へのメッセージ～」で登壇し、発表の機会を得た。教員もモデルとなって研究活動に取り組まねばならない。2026 年度は研究発表会で教育活動における実践報告を行うことが目標である。教員個々がまず、教育活動の中で自己のテーマを決めることができるよう支援していきたい。

2025 年度 看護師等養成所の自己点検・自己評価指針に基づく評価

I 教育理念	2.7 ↓
II 教育目標	2.7 ↓
III 教育課程経営	2.5 ↑
IV 教授・評価過程	2.5 →
V 経営・管理過程	2.2 ↓
VI 入学	2.4 ↓
VII 卒業・就業・進学	2 ↓
VIII 地域社会・国際交流	2.1 ↑
IX 研究	1.3 ↓



メディカルフレンド社 看護教育自己評価指針参照

(3段階評価平均 当てはまる：3 やや当てはまる：2 当てはまらない：1)